

ハローブリッジ下倉庫壁面を「全国都市緑化かわさきフェア」をイメージしたミューラルアートで彩りました！

川崎市では、ストリートカルチャー等若者による文化を活用し、若い人たちが集い、自らの可能性を広げるための環境づくりに向けて若者文化の発信事業を実施しており、これまでに本庁舎整備工事現場の仮囲いにミューラルアートを施す等の取組を行ってきました。

この度、今年の川崎市市制 100 周年及び全国都市緑化かわさきフェア開催を記念し、かわさきフェアのコア会場である富士見公園へのアクセス道路となるハローブリッジ下の倉庫壁面を、かわさきフェアに関連したテーマのアートで彩りました。

1 事業目的

市制 100 周年という歴史的な節目を迎え、次の 100 年に向けた川崎の成長の機会とすることを目的として、かわさきフェア会場のアクセス道路であるハローブリッジ下の倉庫壁面にミューラルアートを施す事業です。



住所：川崎市川崎区宮本町7-8地先



実際のアート

2 コンセプト

『緑化』に不可欠な太陽のもと、川崎区の花「ひまわり」、県立川崎高等学校で行っている養蜂の「蜂」などのほか、川崎市に生息する鳥「カワセミ」や人間、そして植物などの「いのち」が共存する街。

『川崎らしいみどり』を、「多様性」を意識したコラージュ表現で描写し、さまざまな川崎“らしさ”を随所に取り入れることで、「愛着」と「誇り」を市民と共に感じることができるよう描きました。

また、自然との共創のイメージとして、段ボールや針金など、インダストリアルな一面を持つ川崎にも通ずる、いくつかの人工物を抽象的に描いています。特にダンボールはリサイクル率が95%以上と非常に高く、環境への配慮とエコロジー、生活の象徴としてアートの中に取り入れています。

作中のカラフルな浮遊物は「いのち」の温度をサーモグラフィーのように抽象的に表現したものです。また、『全国都市緑化かわさきフェア』に合わせた色使いを意識することで周辺景観との調和も図りました。

3 アーティスト



【YUSEI】

1986年生まれ、福島県福島市出身。神奈川県・東京都を中心に活動。10代後半にグラフィティ・ストリートアートに影響を受け表現の道を歩む。フリースタイルを重視したライブペインティングでスキルを磨き、和・自然と都会的なイメージを融合したアブストラクtnなスタイルで描く。

また、アート集団「輪派絵師団」のメンバーとしての活動では数々の企業広告を手がける。近年ではアートメディア「BEHIND THE WALL」を主宰。

川崎市内においてはミューラルプロジェクト「Wallternatives」の開催など、壁画中心の企画制作を担う。

2024年には姉妹都市であるクロアチア・リエカ市で開催されるイベント「Japan in Rijeka 2024」の開催に伴い、かわさき国際友好使節（K.I.F.A.）としてリエカ市内中心部のビル壁面に大規模ミューラルアートを制作した。

【unomori】

理系大学卒業後、独学で作家活動をスタート。

ストリートアートと出会いクラブやライブハウスでのライブペイントパフォーマンスを行い徐々に活動の幅を広げていく。

緻密な細密画を得意としながらも、技法に囚われずに大胆なペイントやシルクスクリーンを取り入れるなどし作風は日々アップデートしている。

現在では媒体を選ばず、作品制作、壁画、ライブペイント、ボディーペイントをはじめ、メディアやアパレルなどにイラスト提供するなど活動の幅は多岐にわたる。

2017年には「THE YELLOW MONKEY」の25th 記念グッズのイラストを務める。2018年にはニューヨークで開催された展示に作品を出展した。

<https://www.unomori.com/>

<https://www.instagram.com/unomori9/>

